

北九州 市議会だより



NO.203

平成25年11月1日号
(年4回発行)

編集・発行
北九州市議会事務局総務課
TEL582-2622 FAX582-2685



◇市議会のホームページで「市議会だより」や本会議の「会議録」「インターネット中継」などがご覧いただけます。
アドレスは<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/sigikai/>です。



映画「ジックス!!!」ロケ地(若松区古前町 岬ノ山公園)

平成24年度 各会計決算を 認定!

9月定例会が9月10日から10月8日までの29日間の会期で開かれました。

市長から53件の議案が提出され、審議の結果、すべての議案を原案のとおり決定しました。また、議員及び委員会から14件の議案が提出され、うち9件を原案のとおり可決しました。

本会議での質疑・質問と答弁

本会議での質疑・質問と答弁は、要約したものを掲載しています。

詳細を記した会議録は、12月上旬以降、市立図書館、中央図書館、門司・若松・八幡・八幡西・戸畑図書館および市議会事務局でご覧いただけます。

また、市議会のホームページの会議録検索システムでも12月下旬頃から閲覧できます。

主な内容	1～3面	本会議での質疑・質問と答弁 可決した議員提出議案 など 請願・陳情の審議結果	4面	決算特別委員会 市長質疑での質疑と答弁 常任委員会の主な活動状況 議会報告会開催のお知らせ など
------	------	--	----	--

平成24年度決算について

本会議では、各会派から次の22人の議員が質疑・質問を行いました。(発言順。掲載記事の順番とは関係ありません。)

- 森 本 由 美 (ハートフル北九州)
- 大 石 正 信 (日本共産党)
- 山 本 眞智子 (公明党)
- 柳 井 誠 (日本共産党)
- 大久保 無 我 (ハートフル北九州)
- 藤 沢 加 代 (日本共産党)
- 木 畑 広 宣 (公明党)
- 上 野 照 弘 (自由民主党)
- 村 上 直 樹 (公明党)
- 平 原 潤 (日本維新の会)
- 野 依 謙 介 (日本共産党)
- 中 山 義 雄 (ハートフル北九州)
- 山 本 眞 理 (ふくおかネット)
- 佐 藤 栄 作 (みんなの党)
- 吉 村 上 志 (地域の声)
- 石 田 幸 一 (自由民主党)
- 宮 崎 高 輝 (自由民主党)
- 渡 辺 徹 (公明党)
- 白 石 裕 (ハートフル北九州)
- 西 田 一 (自由民主党)
- 吉 田 幸 正 (自由民主党)

集中」を図りつつ、持続可能で安定的な財政の確立に努めたい。

放置竹林対策について

議員 放置竹林による自然災害が懸念されているが、放置竹林の解消などに向けた地域の活動実績を踏まえ、市として具体的な放置竹林対策を進めるべきではないか。

市長 本市の竹林面積は市域の約3%で、そのうち適正に管理されているのは、1割程度と推定している。放置竹林は、人工林の健全な育成など農林業の振興にとって重要な課題であり、災害防止機能など環境保全の面からも大きな問題であることから、市では放置竹林の解消に向けた対策を強化している。

具体的には、竹林の保全や利活用を行うボランティア団体等に対する機械等の購入補助などを行っている。また、10月からは伐採した竹をその場で粉碎する機械を町内会等に貸し出す予定である。

ブラック企業対策について

議員 残業代を支払わない、異常な長時間労働を強いるなどして社員を退職に追い込む「ブラック企業」が社会問題化しているが、本市における実態と対応を尋ねる。

産業経 いわゆるブラック企業の実態は、その定義が明らかでないこともあり、国・県では十分に把握できていない。

労働基準監督署は、若者の使い捨てが疑われる企業等の調査を9月に行っているが、調査の結果は、現時点では明らかにされていない。重大・悪質な違反が確認された企業等は送検、公表されることになっているため、本市としては、その動向を注視したい。

本市でも、若者ワークプラザなどで会社の退職理由や職場の人間関係などの話を聞くことはあるが、ブラック企業の情報は把握できていない。

若者が安心して働くには、労働基準監督署やハローワークなどの連携が不可欠であり、これらの相談窓口や実施事業の広報、若者の採用・育成に積極的な企業のPRなど、国・県の取り組みに沿って、しっかりと対応したい。

障害者の就労支援について

議員 企業の障害者雇用に対する関心が高まる中、障害者の雇用について配慮して設立された「特別会社」を誘致してはどうか。

市長 本市では、障害者の就労支援を推進するため、障害者

安全・安心なまちづくりのため、学校施設等の耐震化、災害対策、防犯、暴力追放への取り組みを強化し、被災地支援も行った。

市民や地域との協働・連携を進めるため、「まちの森プロジェクト」を立ち上げ、未利用市有地や公園の一部を地域に貸し出す事業などを実施した。

これらの取り組みを通じて、「元気に発進!北九州」プランの着実な実現に向けて、一定の成果を上げることができたと考える。

今後は、本市経済の発展を目指す新成長戦略を進め、税収増につなげるとともに行財政改革を継続し、「選択と

しごとサポートセンターを設置している。同センターを通じて就労は年々増加し、平成24年度は88件であった。

特別会社は、障害者にとって、就業機会の拡大や安定的な収入の確保、また、社会の一員として自己実現する機会を得るといったメリットがある。企業にとっても、障害者の特性に配慮した仕事の確保が容易となり、障害者の能力を十分に引き出すことができる。障害者受け入れに当たっては設備投資を集中化できるなどのメリットがある。市内には5つの特別会社・事業所が立地している。本市は新成長戦略で、多様な雇用機会の創出を目指しており、そのモデルとなるものである。

今後の企業誘致活動では、本市独自の障害者の就労支援体制を紹介し、障害者雇用促進の視点を加えて積極的に取り組んでいきたい。